

<校内研修・自主研修用>

3 道徳の授業づくりについて



心に響く道徳の授業とは

- 児童生徒が授業後に、こんな(生き方)をしてみたいという(思い)や(願い)がもてる授業

心を揺さぶる

指導に当たっての基本的な姿勢

「ほめる」から「認める」へ
(自由に発言できる雰囲気)

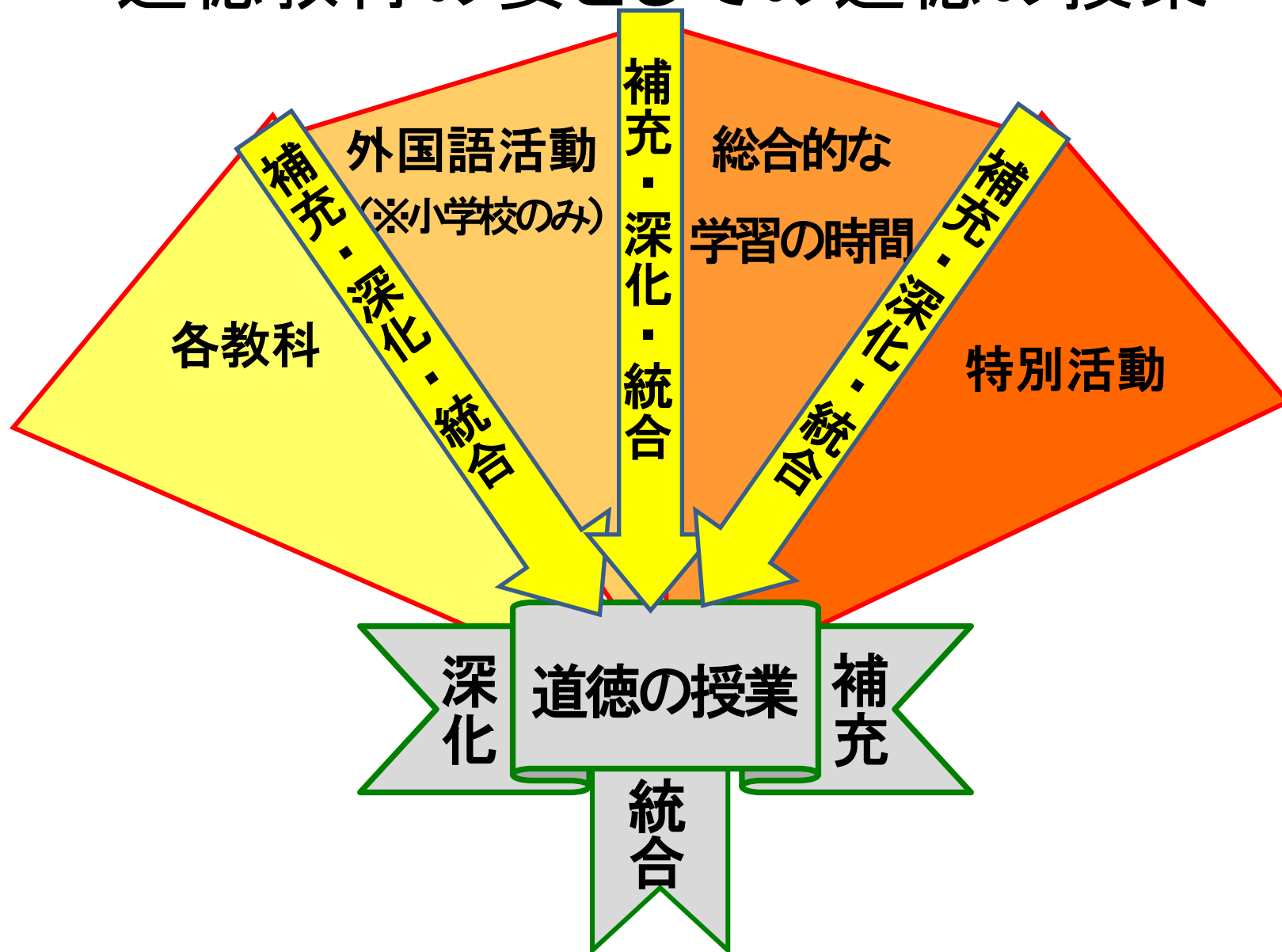
心を耕す構え
(児童生徒と共に)

信じる
声に耳を傾ける
思いに立つ

児童生徒を信頼して
(変容を期待しすぎない)

3 道徳の授業づくりについて

道徳教育の要としての道徳の授業



道徳の授業にすること

道徳的価値の自覚を深めること

(小学校)

自己の生き方について考えを深める

(中学校)

人間としての生き方についての自覚を深める

3 道徳の授業づくりについて

目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

※()は、中学校。

道徳的価値の自覚を深めるために

- ①道徳的諸価値について理解する
- ②自己を見つめる
- ③物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える
- ④自己(人間として)の生き方についての考えを
深める

道徳的価値の自覚を深めるために

①道徳的価値について理解する

意味が分かって

(価値理解・人間理解・他者理解)

- こういうことって大切なんだなあ。
- こんな生き方があるのか
- こんな考え方ってとてもいいなあ。
- いろんな考え方があるんだなあ。



道徳的価値の自覚を深めるために

②自己を見つめる

他人事ではなく

(わがこととして受け止めて、対岸のことではなく、
第三者の評論家でなく)

- 自分は、どうだろうか。
- 自分にもこんないいところがあるぞ。
- 自分はこんな考え方だ。
- こういう考え方って自分にはない考え方だ。



道徳的価値の自覚を深めるために

③物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える

様々な視点から

(他者と対話したり協働したりすることを通して)

- こんな考え方があるんだなあ。
- この考えは、私とは違うな。
- この考えは、私と同じだな。
- 〇〇さんの考えは、私と同じだけど、理由は違うな。
- 〇〇君の考えは、ぼくと違うけど、〇〇は、同じだな。



道徳的価値の自覚を深めるために

④自己(人間として)の生き方についての考えを深める

腑に落ちて、うれしい

(新たに見えてきた自分との出会い)

- こんな考え方を自分もできるといいなあ。
- こんな生き方をしてみたい。
- 自分のこんな考え方や生き方を大切にしていこう。



3 道徳の授業づくりについて

道徳の授業の構想

児童生徒の実態

ねらい

教師の願い

教材を選ぶ

中心場面は？

教材分析をする

発問の構成を考える

中心発問
→ 前後の発問
→ 自分を見つめる発問

指導過程を考える

指導方法を工夫する

事前・事後
指導を考える

3 道徳の授業づくりについて

道徳の授業のねらい

- 児童生徒や学級の**実態**等を考慮する。
- 教材の**特質**を生かす。
- 道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を**育成する視点を具体的に示す**。

～する主人公の～を通して，～に気付かせ，～しようとする道徳的〇〇を育てる。

ねらいの明確化

①主人公

道徳的変容(登場者, 雰囲気・場, 読者)

②道徳的論点(内容項目—十分な理解・咀嚼) 変容(前後の情報)

③山場(場面・ことば・行動)

変容が起きたところ, 感動を呼び起こすところ
よりよい生き方だと感じさせるところ

④助言者 (きっかけ)

自分の良心か, 他者か, その他か

⑤発問(内面的資質を育てるために)

こころを問う, 人間を問う

形容詞に注意

抽象から，具体へ

副詞・副詞句に注目

行動を支えるところ(心)

時間・場所の変化

行間を読む

教材分析例①

(場面)

(登場人物の言動と心の動き)

(発問・児童の意識)

【きつね】

見つからないようおちばでかくす。

おちばをかけて、土をかぶせてかくしておきました。

きつねは、どんな気持ちでくりをおちばでかくしたのだろう。

自分さえよければいい。

・うさぎさんに見つからないようにしよう。

▲思いやり・親切

教材の内容に含まれている道徳的価値等の整理

・ほくだけのものだ。

▲自分勝手

【うさぎ】

きつねの目からなみだがおちる。

「えっ。」なみだがおちてきました。

なみだをながしたきつねは、うさぎになんと言うだろう。

うさぎの優しさにふれ、反省する。

「やっと、二つ見つけたのです。一つさしあげましょう。」

・ありがとう。

教材の内容に含まれている道徳的価値等の整理

◎思いやり・親切

○思慮反省

きつねをかわいそうに思ううさぎの優しさ。

・なんてやさしいんだ。

・ほくもうさぎさんのようにやさしくなろう。

教材分析例②

資料場面	登場人物の行為・心算	その他の人物	中心発問・活動	児童の意識の流れ	心算の流れ
<p>掲示板で由衣のやりとテレビ番組について書き込みをする。</p> <p>由衣</p>	<p>中心人物</p> <p>「また誰か書き込んでいるかな どんな話かな」</p>	<p>キキ</p> <p>由衣の書き込みに反論する。</p> <p>「トールよりアリのほうがいいな。字がまちがってる。よく確かめればいいのに。トールのことばかり書いていやだな。」</p>	<p>○どんな思いで掲示板の交流をしていたでしょう。</p>	<p>・掲示板は楽しいな。 ・どんな返事がくるかな。</p>	
<p>キキからキキからの書き込みにのいやないら立つ返事にイライラする由衣</p>	<p>「いやなことばかり書いてくる。 もうやめてほしい。 ひどい人だわ。」</p>	<p>クミクミ</p> <p>「キキは、ゆっさんにかっこいいな。トールの話ししてもいいと思う。」</p>	<p>○キキからの言葉にどんな反応があったか。</p>	<p>・なことはみてもあつてく</p>	
<p>キキを非難する書き込みをする由衣</p>	<p>「私だって仕返ししてやる。 少しは人の気持ちも分かってよ。」</p>	<p>ダイチ</p> <p>「ばくもトールの話したいな。」</p>	<p>◎由衣は何をしようとしたでしょう。</p>	<p>・重口を書けばキキが傷つくかな。 ・同じことをしても楽しくない。 ・キキは違う人が好きなんだ。</p>	
<p>キキと仲良くしようとする由衣</p>	<p>「こんなことしても仲良くはできないな。 やっぱりやめた方がいいかな。」</p>	<p>リサ</p> <p>「みんなが好きな人物を言ってその話をすればいいのに。」</p>	<p>○キキからの返事が楽しみになったのはどうしてでしょう。</p>	<p>・キキとアリの話をしてみよう</p>	

本時で取り上げる内容項目に係る登場人物の心情の流れ

3 道徳の授業づくりについて

道徳の授業の基本的な学習指導過程

5分

導入 学習への動機付け

20～30分

展開前半 価値を追求・把握

10～15分

展開後半 価値の自覚・一般化

5分

終末 価値の整理・まとめ

3 道徳の授業づくりについて

導入段階

主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階

- 価値への方向付け
- 教材への方向付け
- 学習の雰囲気づくり

- 短時間で
- 前向きな気持ちに
- 意識や思考の連続

- 本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入
- 教材の内容に興味や関心をもたせる導入

3 道徳の授業づくりについて

アンケート調査結果を活用した導入



3 道徳の授業づくりについて

写真を提示した導入



3 道徳の授業づくりについて

数字を活用した導入



65%

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くだろう」

ニューヨーク市立大学大学院センター教授 キャシー・デビッドソン氏

展開

- ・ **ねらいを達成するための中心**となる段階
- ・ 中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に **自己を見つめる**段階

児童生徒がどのような問題意識をもち、どのようなことを中心にして自分との関わりで考えを深めていくのかについて主題が明瞭となった学習を心掛ける。

展開前半

- ・内容理解
- ・登場人物への共感

- ・全員が同じ土俵に
- ・状況は絞って

自己を見つめるなどの学習が深まるように

- ・教材に描かれている道徳的価値に対する児童生徒一人一人の考え方や感じ方を生かす。
- ・物事を多面的・多角的に考える。
- ・児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解する。

3 道徳の授業づくりについて

展開後半

- ・ 高められた道徳的価値に照らして今までの自分を振り返る。

- ・ 体験を生かす働きかけ
- ・ ざんげや決意表明にならないように
- ・ 「こうありがたい」という思い

- ・ 共通体験の想起
- ・ 写真
- ・ ビデオ
- ・ 補助教材
- ・ 書く活動
- ・ 導入の想起
- ・ 自己評価の視点 など

3 道徳の授業づくりについて

終末

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

- ・短時間に
- ・充実感や気持ちの高まり、余韻を大切に
- ・押しつけや実践の強制はしない

- ・学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる学習活動
- ・学んだことを更に深く心にとどめる学習活動
- ・これからへの思いや課題について考える学習活動 など

道徳科に生かす指導方法の工夫

- (1) 教材を提示する工夫
- (2) 発問の工夫
- (3) 話合いの工夫
- (4) 書く活動の工夫
- (5) 動作化, 役割演技など表現活動の工夫
- (6) 板書を生かす工夫
- (7) 説話の工夫

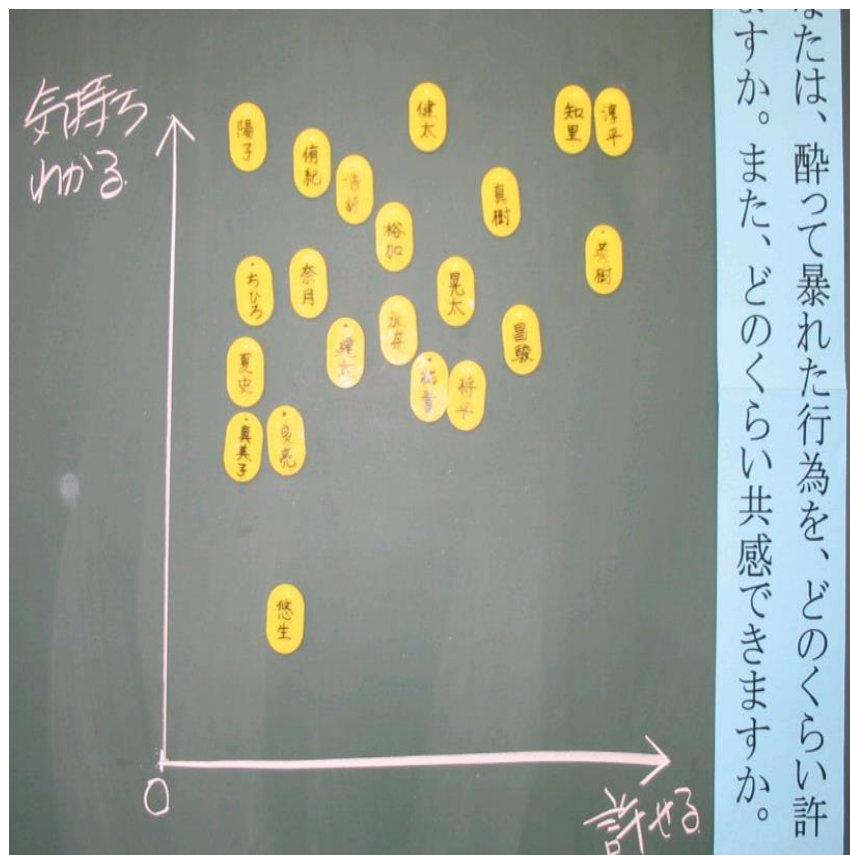
3 道徳の授業づくりについて

(1) 教材を提示する工夫

- 精選した情報の提示が想像を膨らませ、思考を深める上で効果的な場合もあることに留意する。

3 道徳の授業づくりについて

教具の工夫例



横軸での活用(小学校)

横軸・縦軸での活用(中学校)

【ネームプレートの活用例】

3 道徳の授業づくりについて

教具の工夫例



【ネームプレートの活用例】

3 道徳の授業づくりについて

【三色の心情円盤】



【心のものさし】



3 道徳の授業づくりについて

(2) 発問の工夫

・児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める重要な鍵

- ・考える必然性や切実感のある発問
- ・自由な思考を促す発問
- ・物事を多面的・多角的に考える発問

道徳の授業の発問

多様な感じ方や考え方を引き出すためには

- ①「こころ」が直接書かれていない箇所を問う。
- ②「こころ」を考えさせる発問にする。
- ③「気持ち」ばかりではなく、判断理由や意欲を問う。
- ④「副詞」を丁寧に扱う。
- ⑤児童生徒の予想を超える発問で、深く考え新しい学びが得られるようにする。

3 道徳の授業づくりについて

道徳の授業の発問構成

①中心発問を考える

ねらいとする道徳的価値の内面的な自覚を深めるための、最も重要な発問。

②基本発問を構成する

各指導過程の中で、ねらいに迫るために欠かすことのできない発問。

③補助発問を配置する

話合いや思考を活性化するために、基本発問や中心発問を補ったり、視点を変えたりする発問。

3 道徳の授業づくりについて

主人公に対する立ち位置による発問区分

A 共感的な発問

例) ~はどんな気持ちか。~は何を考えているか。

B 分析的な発問

例) ~がそうしたのなぜか。~から学ぶことは何か。

C 投影的な発問

例) もしも自分が~ならばどうするか。~になったらどうするか。

D 批判的な発問

例) ~のしたことをどう思うか。~は、本当にそれでよいのか。

【発問区分は、東京学芸大学教授 永田 繁雄教授(前文部科学省調査官)による】

3 道徳の授業づくりについて

主人公に対する子供の立ち位置(例)

主人公の心情や
考えを明らかにする

A 共感的な発問

発問例) ~はどんな気持ちか。
~は何を考えているか。

B 分析的な発問

発問例) ~がそうしたのなぜか。
~から学ぶことは何か。

主人公に自分を
重ねる

近い

遠い

主人公を客観的
にみる

C 投影的な発問

発問例) もしも自分が~ならばどうするか。
~になったらどうするか。

D 批判的な発問

発問例) ~のしたことをどう思うか。
~は、本当にそれでよいのか。

自分自身

自分自身の気持ちや
考えをもち意識する

横軸・・・距離感
縦軸・・・自他

【東京学芸大学教授 永田 繁雄教授(前文部科学省調査官)による】

3 道徳の授業づくりについて

発問について

①場面発問 【「安全運転」型の授業】

教材中のある場面に即して、そこでの登場人物の心情や判断、行為の理由などを問うたり、気付きを明らかにしたりする発問。 **A 共感的な発問**

②テーマ発問 【「冒険運転」型の授業】

教材のテーマそのものにかかわって、それを掘り下げたり、追求したりする発問。「主題発問」ともいえる。
B 分析的な発問 **C 投影的な発問** **D 批判的な発問**

【発問区分は、東京学芸大学教授 永田 繁雄教授(前文部科学省調査官)による】

3 道徳の授業づくりについて

(3) 話合いの工夫

児童生徒相互の考えを深める中心的な学習活動

目的に応じた効果的な話合いの工夫

- 例) ・考えを出し合う
 - ・まとめる
 - ・比較する など

- ・座席の配置
- ・討論形式
- ・ペアでの対話
- ・グループによる話合い

3 道徳の授業づくりについて

話し合い活動で留意したいこと

教師と児童生徒の閉じられた受け答えではなく、**相互作用**を促し、聞き合いや議論が生まれるように配慮する。

3 道徳の授業づくりについて

(4) 書く活動の工夫

- ・児童生徒が自ら考えを**深めたり**，**整理したり**する機会として，重要な役割をもつ。
- ・この活動は必要な時間を確保することで，児童生徒が自分自身と**じっくりと向き合う**ことができる。

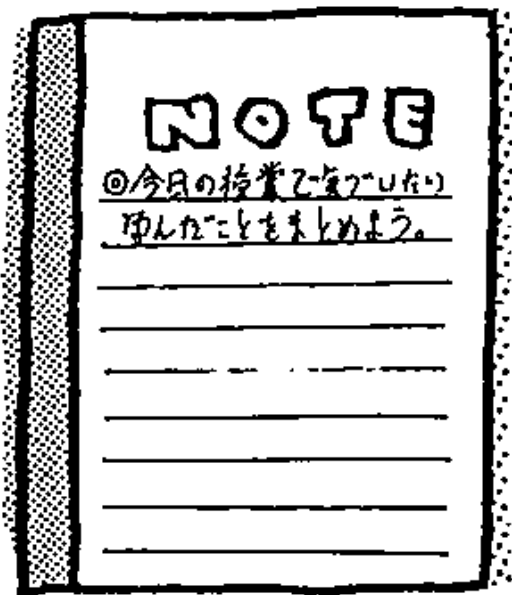
3 道徳の授業づくりについて

書く活動で留意したいこと

書く回数を重要な箇所に**絞り込み**，記述内容を生かす工夫をする。

3 道徳の授業づくりについて

ワークシートの工夫例



- **吹き出し**をつけた形式
- **手紙**の形式
- **作業的, ゲーム的**な内容を組み入れた形式
- 自己評価欄や自分の考えを**マークできる欄**を置いた形式
- 文字だけではなく、**絵や記号等**で書くことのできる形式
など

対話活動の工夫

ワークシート

道徳ワークシート

「甲子園でプレーがしたい」

氏名

①自分の意見とその理由を書こう

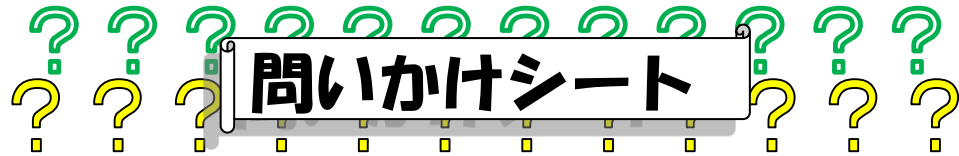


②,加わったり,変化した自分の意見を書こう



③グループ対話をふまえて,自分の意見を書こう

④今日学んだことを基に,自分自身に問いかけよう。



「問いかけシート」

「問い」の種類	問いかけの例
理由を明らかにする	なぜ～？ どうして～？
内容を具体的ににする	～ってどういう意味？ 具体的に言うと、どういうこと？ 例えばどんな？
方法や手段を考える	どうやって？ どうすれば～できる？
仮定して考える	もし～だったら、どうする(どうなる)？ もし～しなかったら？
視野をひろげる	他にはどんなことが考えられる？ 他の人はどう思う？
比較する	どっちが～かな？
確認する	つまり、～ってということ？ 本当にそう？(なぜ、そう言える?)
誰の利益か考える	誰にとっていいの？ それが〇〇のため？

3 道徳の授業づくりについて

(5) 動作化，役割演技など表現活動の工夫

- **役割演技**・・・特定の役割をもって即興的演技から深める方法
- **動作化**・・・動きを忠実に真似して実感的な理解を深める方法
- **疑似体験活動**・・・一定条件での追体験的活動
- **劇化**・・・せりふや演技や状況などの真似

表現活動の意義

- ・児童生徒の**感性**を磨く。
- ・**臨場感**を高める。
- ・自分自身の問題として深く関わり、ねらいの根底にある道徳的価値についての**共感的な理解**を深める。

表現活動で留意したいこと

常に大がかりな場の設定が効果的だとは、限らない。

児童生徒の動作や表情が創造的に発揮される**場の設定を工夫**する。

3 道徳の授業づくりについて

(6) 板書を生かす工夫

- 児童生徒にとって**思考を深める**重要な手掛かりになる。
- 教師の**伝えたい内容**を示す。
- その順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりするなど、**多様な機能**をもっている。

板書で留意したいこと

順接的，時系列的な構成だけでなく**対比的，構造的な構成**の工夫も大切にする。

- 中心部分を特にクローズアップした構成
- 意見の違いが類別化，類型化された構成
- 児童生徒が参画できる構成
- 黒板を舞台のようにした構成

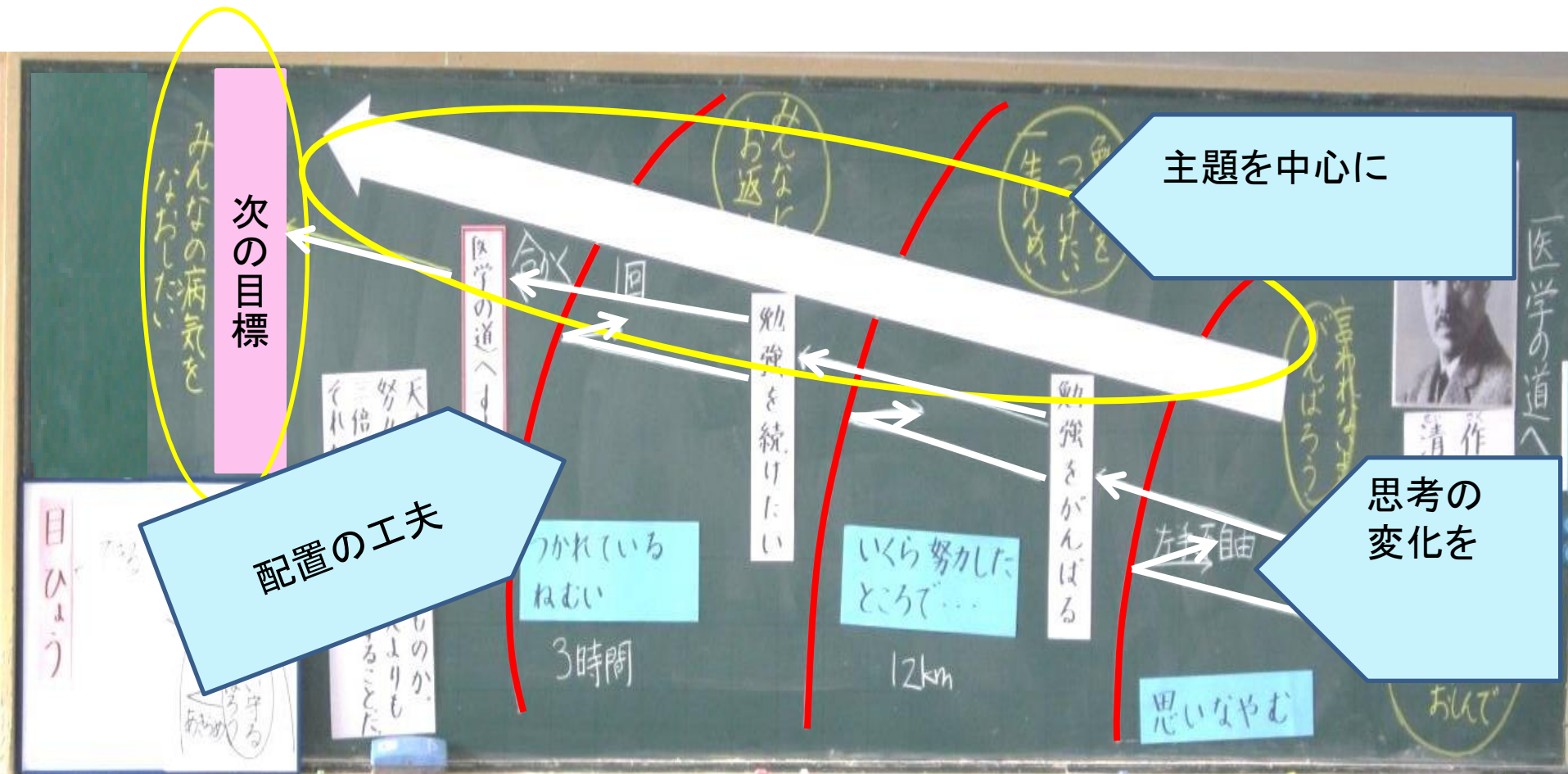
3 道徳の授業づくりについて

主題を中心に

対比的
構造的



3 道徳の授業づくりについて



3 道徳の授業づくりについて



3 道徳の授業づくりについて

(7) 説話の工夫

- ・児童生徒が**思考を一層深めたり**，**考えを整理したり**するのに効果的。
- ・児童生徒の心情に訴え，**深い感銘**を与えることができる。
- ・ねらいの根底にある道徳的価値を生徒が一層主体的に捉え，**人間としての生き方**についての自覚を深めることができる。

